



三角小だより

8・9月号 ふじみ野市立三角小学校
令和7年8月25日



【学校教育目標】

ゆめのある子
・かしこい子 (知)
・やさしい子 (徳)
・たくましい子 (体)

「今の自分を超える2学期へ」

校長 湯本 貴幸

毎年同じようなあいさつで始めるこの時期の学校だよりですが、やはり「今年も例年以上に暑かった」そんな印象が残りました。時より訪れるスコール、最近ではゲリラ豪雨という言葉になりますが、校庭や畑の雑草も雨が降る度にぐんぐん成長している姿を横目にあまりの暑さで躊躇してしまい、思うような作業ができず草刈りがなかなか追いつかない状況でした。2学期のはじめはその環境整備からのスタートとなりそうです。猛暑にもかかわらず、おかげさまで今夏もけがや事故の情報が学校に入ってくることはなく、子供たちは元気に過ごせていたようです。ありがとうございました。

今日の始業式では、「2学期は今の自分を超える」という話をしました。終業式では、休む(リフレッシュ)はもちろんのこと、勉強や遊び、体験活動、家族とのふれあいなどバランスとれた活動をし、自らが「育つ」ための夏休みにしようということを伝え、話を終えました。意図としては、2学期に今の自分を超えるための準備期間にしたかったということがあります。

文部科学省のホームページには、「子供の現状」として「基本的な生活習慣や態度が身についていない」「他者とのかかわりが苦手」「自制心や耐性、規範意識が十分に育っていない」「運動能力が低下している」などの課題が指摘されています。また、多くの情報に囲まれている環境にあるため、知識は増えているものの、学びに対して意欲や関心が低く、受け身的なことが多いとのことです。本校の実態でも当てはまることはいくつもあります。

私を含めて、人はさまざまな経験の中で失敗することがあります。そして、その失敗を恐れるばかりに「何もしない」という選択をすることがあります。何にもしなければ失敗をすることもなく、心の安定は図れるかもしれませんが、しかし、何にもしなければ何も生まれないという一面もあります。つまり、「失敗」とは、「やって初めてわかること」であり、自分自身にとっては確実に学びにつながっているとも言えるのです。そして、もっと大切なことは、その失敗をとおして「何を学んだか」「どうしたらもっと良くなるか」を考えることです。その失敗と真正面に向き合い、それを少しでも乗り越えることを「今の自分を超える」と捉えてほしいと思っています。

具体的には、朝、確認不足のため、忘れ物をしたことで困ってしまった失敗経験から、自ら確認をして忘れ物がなくなっていくことや、わからない問題をそのままにしていたために、もっとわからなくなった経験から、今学期から質問したり、調べたり、予習復習をしたりして自己解決するなど、昨日までの自分になかったことを今学期からやってみるということです。そんな子供たちのさまざまな挑戦を認め、声かけで励まし、教職員一同見守っていきたいと思います。

今学期も変わらず、本校の教育活動のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

※お気づきの方もいらっしゃると思いますが、今月号より学校だより表題の「トライくん」が新デザインになっています。これは学校応援団の保護者の方が時間を割いてデザインしてくださったものです。ありがとうございます。旧トライくん共々、かわいがっていただければと思います。